

会津は米どころ コシヒカリ・ひとめぼれの特A産地!!

両沼地方稲作情報 第4号

平成26年7月1日

発行：JA会津みどり営農部・各総合支店

福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2112）

”

金山普及所（電話0241-54-2801）

※ 斑点米カメムシ類の発生注意報が発令されました!!

6月30日に斑点米カメムシ類の注意報が発令されました。アカスジカスミカメの発生が多くなっています。**対策の詳細は3ページをご覧ください。**

1 7~9月の気象予報

7~9月の気温は、平年並みとなる見通しです。本年はこれまで概ね高温小雨で経過したため、葉いもちの発生は少ない状況ですが、7月8月は降水量が多くなる確率が高いため、注意が必要です。ただし、地域ごとの差が大きいため、週間予報や時間ごとの予報を見ながら、作業の計画を立ててください。

2 イネの生育状況

6月中、気温が高い日が多かったため、葉齢、茎数共に平年を上回り、生育は良好です。

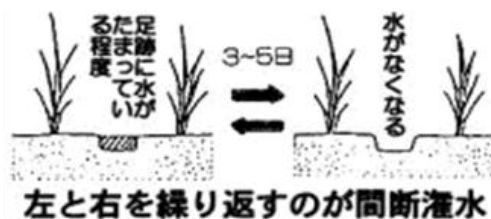
表1 農業総合センター会津地域研究所 水稻作柄概況（6月24日調査）

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	最終葉数
研究所 移植日					
コシヒカリ	本年	45.4	784	9.8	
会津坂下	平年	43.8	611	9.0	13.0
5/20 移植	平年比	104%	128%	+0.8	
ひとめぼれ	本年	44.4	824	9.7	
会津坂下	平年	42.7	734	8.9	12.6
5/20 移植	平年比	104%	117%	+0.8	

3 今後の栽培管理

(1) 中干し後の水管理

中干しが終わったら、基本的には、間断かん水で管理します。根腐れの発生防止のため、低温時（17℃以下）及び開花期以外は湛水状態にはしません。低温が予想される場合は、水深 10~15cm 程度にして幼穂を保護しましょう。



(2) 適切な穂肥の時期と量

基肥一発肥料や苗箱まかせ肥料を使用していない場合は、穂肥を行いません。

穂肥は、一穂粒数や千粒重の増加を促します。しかし、窒素をやりすぎると倒伏しやすくなるため、収量や品質を落とします。また、いもち病の発生や害虫の発生を助長してしまいます。そのため、表2を参考にして、適切な時期に適切な量を追肥するようにしてください。

また、表3を参考に、ほ場で幼穂長を確認して、施用時期を判断して下さい。天のつぶの出穂期は、一般的にひとめぼれとコシヒカリの間です。

表2 穂肥時期の目安

品種名	出穂前日数	窒素分量
ひとめぼれ、天のつぶ	-25日	2.0kg/10a
コシヒカリ	-15日	1.5~2.0kg/10a

表3 幼穂長と出穂前日数

幼穂長	0.1 cm	0.2 cm	1 cm	2 cm	8 cm
出穂前	25日	21日	18日	15日	12日



幼穂長

(参考) 出穂期の平年値について

品種名	場所	出穂期	品種名	場所	出穂期
ひとめぼれ	湯川	8/4	コシヒカリ	高田	8/11
ひとめぼれ	昭和	8/7	コシヒカリ(直播)	本郷	8/13

(3) 天のつぶの品質を良くするための栽培法

天のつぶは割れ粳が発生しやすいため、斑点米カメムシ類の被害を受けやすい品種です。昨年は斑点米により、天のつぶ以外の品種と比較して、1等米比率が大きく劣りました。そのため、今後の管理では、「① 割れ粳が発生させないこと」と「② カメムシの防除をしっかりと行なうこと」が重要になってきます。

① 割れ粳が発生させない方法について

窒素の追肥を行いません。追肥の時期と量の目安は、「出穂25日前に窒素分量で2.0kg/10a」です。

② カメムシ防除について

3ページを参照して下さい。天のつぶなどの割れ粳の発生しやすい品種では、**出穂20日後に追加散布**することが効果的です。

4 病害虫等対策情報

(1) 斑点米カメムシ類

6月30日、福島県病害虫防除所より、斑点米カメムシ類の注意報が発令されました。斑点米カメムシ類の中では、特にアカスジカスミカメ（右図）が多くなっています。以下の対策を行なうことで、被害の防止に努めて下さい。



[斑点米カメムシ類対策]

① 畦畔や休耕田などの雑草地の除草を徹底して行ないましょう!!

この作業は、7月20日までに行ないましょう。地域ぐるみ（例えば集落単位）で纏まって行なうことが効果的です。これ以降の除草は、雑草に生息しているカメムシを水田に追い込んでしまうため、逆効果になります。

草刈り強化期間：7月10～20日

② 適期に薬剤を散布しましょう!!

出穂後、以下に従って、殺虫剤により斑点米カメムシ類の防除を行ないましょう。斑点米カメムシ類が耐性を獲得するのを防ぐために、1回目と2回目の散布では系統が異なる薬剤を散布しましょう。

1回目の防除：出穂期の7～10日後（乳熟期） 「しいな」の予防

2回目の防除：1回目の防除の7日後（糊熟期） 「斑点米」の予防

表4 斑点米カメムシ類に有効な殺虫剤

薬剤名	薬剤系統	使用時期	使用量	使用方法
スタークル粉剤 DL	ネオニコチノイド系	収穫7日前まで	3kg/10a	散布
スタークル液剤 10	ネオニコチノイド系	収穫7日前まで	60～150L/10a (1000倍希釈)	散布
ダントツ粉剤 DL	ネオニコチノイド系	収穫7日前まで	3～4kg/10a	散布
ダントツフロアブル	ネオニコチノイド系	収穫14日前まで	60～150L/10a (5000倍希釈)	散布
キラップ粉剤 DL	フェニルピラゾレール系	収穫14日前まで	3～4kg/10a	散布
キラップフロアブル	フェニルピラゾレール系	収穫14日前まで	60～150L/10a (1000～2000倍希釈)	散布

(2) イネアオムシ（フタオビコヤガ）

生育が遅れたり、葉色が濃いイネに多発しやすいという特徴があります。昨年、被害が出たほ場では、7月上旬～中旬に特に注意して観察して、発生があれば防除を行なって下さい。

表6 イネアオムシに有効な薬剤

薬剤名	使用時期	使用量	使用方法
MR. ジョーカー粉剤 DL	収穫7日前まで	3kg/10a	散布

(3) イネいもち病

周辺に葉いもちが発生すると、そこが感染源となって、穂いもちの発生が多くなります。穂いもちが発生すると収量が減少するため、穂いもちの発生を未然に防ぎましょう。

BLASTAM（福島県病害虫防除所のホームページを参照）の感染好適日から1週間後ぐらいに、ほ場内の「葉が垂れている部分」を確認して下さい。**もし、葉いもちの発生があれば、穂いもちへの感染拡大を防ぐために、すぐに、散布剤（粉剤・液剤）で防除しましょう。**



会津坂下町のほ場 坪状に葉色が濃く、葉が垂れています。露が残り、葉いもち発生しました。(25・7・30撮影)

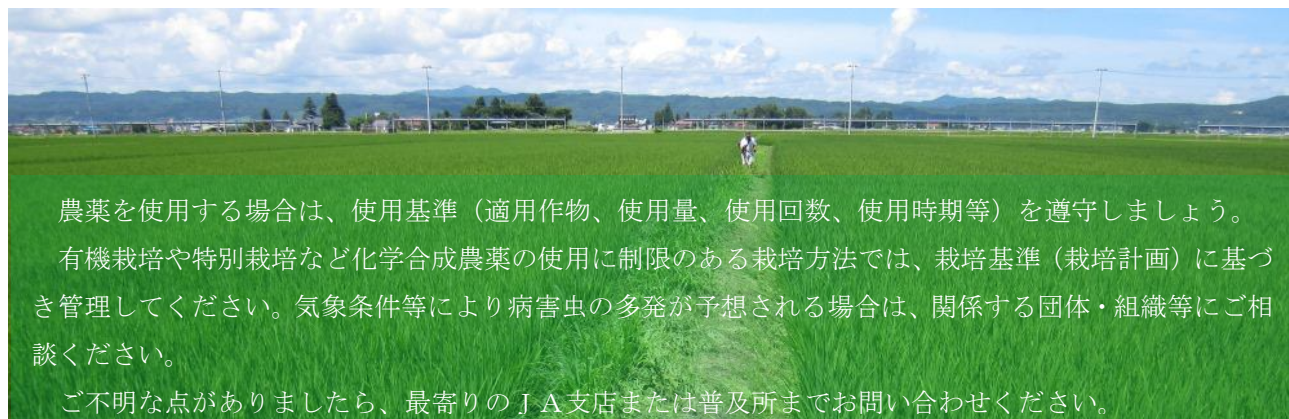
穂いもち用の防除剤は下記の表を参考にしてください。

表5 イネいもち病（穂いもち）に有効な薬剤

薬剤名	使用時期	使用量	使用方法
コラトップ粒剤5	出穂 30～5 日前	3～4kg/10a	散布
フジワン粒剤	出穂 30～10 日前	3～5kg/10a	湛水散布
カスミン粉剤 DL	穂揃期まで	3～4kg/10a	散布
ビーム粉剤 DL	収穫 7 日前まで	3～4kg/10a	散布

※農薬による蜜蜂への影響にご注意ください。

平成 26 年 6 月 20 日、農林水産省により、「蜜蜂被害事例調査の中間取りまとめ及び今後の対策について」が発表されました。それによると、蜜蜂の被害は、水田の開花期に多く、カメムシ対策に使用した農薬（殺虫剤）を直接浴びたことが原因となっている可能性が指摘されています。そのため、農家の皆さんと無人ヘリコプターによる防除実施主体は、養蜂家の皆さんと散布予定日や散布場所等の情報の共有をしっかりと行なうようにお願いします。



農薬を使用する場合は、使用基準（適用作物、使用量、使用回数、使用時期等）を遵守しましょう。

有機栽培や特別栽培など化学合成農薬の使用に制限のある栽培方法では、栽培基準（栽培計画）に基づき管理してください。気象条件等により病虫害の多発が予想される場合は、関係する団体・組織等にご相談ください。

ご不明な点がございましたら、最寄りの J A 支店または普及所までお問い合わせください。